



国立科学博物館

National Museum of Nature and Science

プレスリリース

令和3年1月19日  
独立行政法人 国立科学博物館

おうちで恐竜博物館！！ 日本各地の恐竜骨格をVRでぐるっと見学

## 「ディノ・ネット デジタル恐竜展示室」

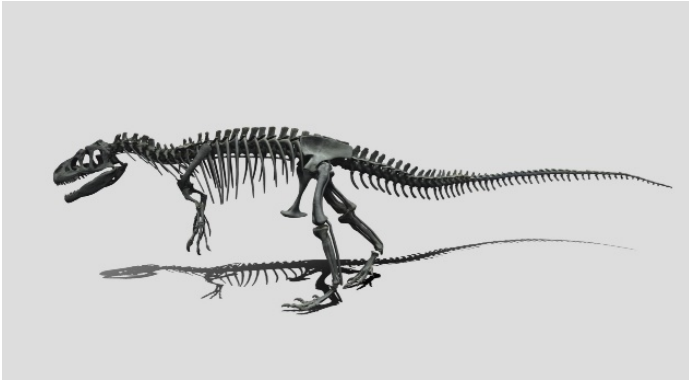
～4つの博物館が所蔵する恐竜化石を360度閲覧可能なVRコンテンツとして公開。  
日本を代表する恐竜博士たちがライブで解説するオンライン講座も開催～

国立科学博物館(館長:林 良博)と凸版印刷株式会社(代表取締役社長:磨 秀晴)は、オンライン上で恐竜の骨格を360度閲覧できるVRコンテンツ特設サイト「ディノ・ネット デジタル恐竜展示室」を2021年1月19日(火)から無料で公開いたします。

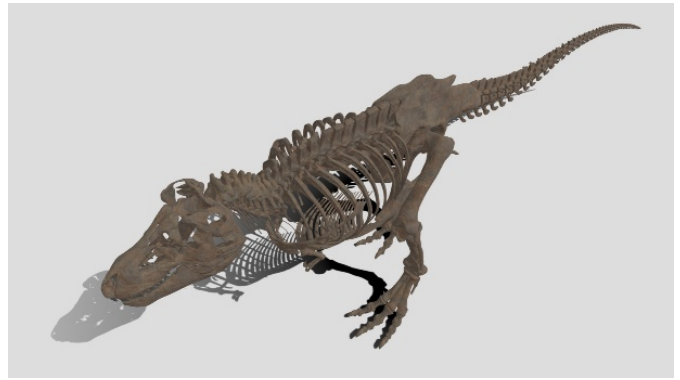
また、ディノ・ネットのVRコンテンツを活用し、日本を代表する恐竜博士たちが行う特別なオンライン講座を、2月6日(土)、13日(土)、20日(土)、27日(土)の全4回、有料で配信します。



特設サイト「ディノ・ネット デジタル恐竜展示室」のトップページ



アロサウルス全身骨格化石デジタルデータ



『V×R ダイナソー®』よりティラノサウルスの骨格化石デジタルデータ

国立科学博物館と凸版印刷は、2013年より同館が所蔵するティラノサウルスやトリケラトプスなど恐竜の骨格標本の立体形状計測データをもとにVRコンテンツ化した『V×R ダイナソー®』を開発、活用する共同事業を実施しています。本企画では、これに加えて新たに「アロサウルス」と「パキケファロサウルス」の2体の恐竜のデジタルデータをVRコンテンツとして開発しました。

また、北海道大学総合博物館、群馬県立自然史博物館、むかわ町穂別博物館の各館が所蔵する代表的な恐竜化石の3Dデータも計測し、VRコンテンツとして開発しました。

今後両社は、オンラインを通じた全国の自然系博物館とのデジタルデータの相互提供をはじめとし、所蔵館の研究者が相互に参加するオンライン講座の開設など、地域博物館とのネットワークを構築し、博物館を核とした地域活性化の施策を展開していきます。

**4館が所蔵する化石(恐竜7種(9体)、魚竜、ワニ、哺乳類)標本のデジタルデータを一堂に集め、実際の展示室では実現困難な、オンラインならではの貴重なVR展示を、ぜひご体験ください!!**

#### ■ 「ディノ・ネット デジタル恐竜展示室」について

新しい生活様式を踏まえて、オンラインを通じて自宅に居ながら博物館にいるかのように学ぶことができるプログラムが「ディノ・ネット デジタル恐竜展示室」です。4館が所蔵する化石(恐竜7種(9体)、魚竜、ワニ、哺乳類)標本のデジタルデータを、自宅に居ながら恐竜化石標本の3Dデータを無料で自由に閲覧、観察できます。

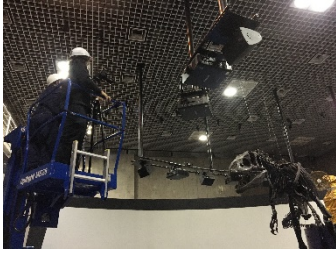
さらに、恐竜研究者がこれらの3Dデータを利用して、講義を行う一夜限りの特別なオンライン講座を有料で開催します。

イベント名	「ディノ・ネット デジタル恐竜展示室」
主催	国立科学博物館、凸版印刷株式会社
特設サイト(無料)	<a href="https://dino-net.jp/">https://dino-net.jp/</a>
オンライン講座(有料) 開催日	① 2021年2月6日(土) むかわ町穂別博物館・北海道博物館 ② 2021年2月13日(土) 群馬県立自然史博物館 ③ 2021年2月20日(土) 北海道大学総合博物館 ④ 2021年2月27日(土) 国立科学博物館 ※都合により開催が中止になる場合があります。
チケット販売	イープラス <a href="https://eplus.jp/dino-netdigital/">https://eplus.jp/dino-netdigital/</a> ※実施館ごとに異なります。詳細は特設サイトをご覧ください。

\*本企画は文化庁「文化芸術収益力強化事業※」の採択事業です

## ■ 「ディノ・ネット デジタル恐竜展示室」の特長

### ① 恐竜の全身骨格のデジタルアーカイブデータを活用した VR コンテンツの公開



アウロサウルスの計測風景

国立科学博物館と凸版印刷が共同で立体形状計測データをもとに VR コンテンツ化した『V×R ダイナソー®』の「トリケラトプス」と「ティラノサウルス」に加え、新たに「アロサウルス」と「パキケファロサウルス」2 体の恐竜の全身骨格を立体形状計測し、そのデータを用いて制作した VR コンテンツを公開します。

### ② 恐竜全身骨格の VR コンテンツを活用したオンライン講座を開催



©与古田松市

展示室から研究者が講義を実施

研究者の説明に応じて、参加者自身が細部まで再現された恐竜骨格のデジタルデータを操作し、自由な位置からその細部まで観察することができます。実際に博物館の展示室で恐竜化石標本を見ながら、講義を聴講しているかのような体験がオンラインで可能です。

サプライズとして、海外の研究者のゲスト参加やダウンロードして楽しめるコンテンツの提供なども予定しています。

### ③ 地域の自然史系博物館と連携

今回のオンライン講座では、国立科学博物館のほか、群馬県立自然史博物館(所在地:群馬県富岡市)、北海道大学総合博物館(所在地:北海道札幌市北区)、むかわ町穂別博物館(所在地:北海道勇払郡)も参加。各博物館収蔵品のデジタルデータを用いた恐竜コンテンツも公開し、講座で活用します。

#### <登壇講師プロフィール>

#### 【真鍋 真(まなべ まこと) / 国立科学博物館 標本資料センター・コレクションディレクター(センター長)】



©与古田松市

横浜国立大学教育学部卒業、米イェール大学大学院地質学・地球物理学部修士課程修了、英ブリストル大学理学部地質学科 PhD 課程修了。1994 年から国立科学博物館に勤務。2020 年から群馬県立自然史博物館・特別館長も兼務。恐竜など中生代の爬虫類、鳥類化石から、生物の進化を少しでも理解しようと、化石と心の中で対話する日々を送っている。

#### 【對比地 孝亘(つひひじ たかのぶ) / 国立科学博物館地学研究部研究主幹】



東京大学理学部生物学科および地学科卒業後、米イェール大学にて博士号取得。米フィールド博物館、オハイオ大学、国立科学博物館での期限付き研究員を務めた後、東京大学大学院理学系研究科講師および准教授を経て、現在国立科学博物館地学研究部研究主幹。専門は恐竜類を中心とした爬虫類の進化形態学で、野外調査を行うことにより得られる化石の情報と、現生種の解剖学的知見の両方を生かした研究を行なっている。

※ 文化庁「文化芸術収益力強化事業」

文化庁の令和 2 年度戦略的芸術文化創造事業。新型コロナウイルス感染症の拡大による収益機会の減少などにより、多くの舞台芸術団体・博物館等の文化芸術団体の経営環境が厳しさを増す中、コンテンツ制作・配信、プロモーションなどのデジタル技術、サービスを活用し、デジタルならではの価値体験を創造することで文化芸術団体の新たな収益確保・強化を支援する事業です。

\* 本ニュースリリースに記載された商品・サービス名は各社の商標または登録商標です。

\* 本ニュースリリースに記載された内容は発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります

以 上

<講座に関するお問い合わせ先>

国立科学博物館:科学系博物館イノベーションセンター マーケティング・コンテンツグループ

TEL 03-5814-9191 e-mail xr-contents@kahaku.go.jp

<報道に関するお問い合わせ先>

凸版印刷株式会社:広報本部 TEL 03-3835-5635 FAX 03-3837-7675